

平成22年3月30日

横浜市長 林 文子殿

ホタルのふるさと瀬上沢基金
横浜市港南区港南台 9-30-31
理事長 角田東一
TEL 090-6191-1861

いたち川の改修に“多自然川づくり”の要請

横浜市ではいたち川を「全国の川造りのモデル河川」として、多自然工法を取り入れた川造りを誇っています。これは、国土交通省「多自然川づくり基本指針」、「生物多様性基本法」、横浜市「生物多様性保全再生指針」などに合致したもので、大変すばらしいものです。

しかしながら、現在「神戸橋」から上郷地区センターまで、蛇行している河川を埋めて、直線化を行いコンクリートで固めるという、全く“多自然工法”とかけ離れた工事が進められています。またこの工事で、バイパス河川を二度堀するような無駄な工事が行われています。

いたち川の神戸橋から上郷地区センター間は川窪と呼ばれ、いたち川で唯一完全な蛇行の姿を残している貴重な自然遺産です。この河川敷で見られる増水時の攪乱は、河川の基本的営みとして生物多様性にとって重要なものです。

自然環境の重要さが叫ばれている今、周辺住宅などへの浸水懸念など皆無であり直線化する必要性のない工事に、貴重な税金を使って自然遺産を破壊するのは、二重の損失です。

神戸橋—上郷地区センター間のいたち川を、国、県、市の方針に則り、工事前の状態に復元することと神戸橋の水流を旧河川に流すことを要請します。

また、環境創造局と道路局で全く方針が異なること、及びバイパス河川の二度堀りによる税金の無駄遣いについて、市長はどのように考えているかお伺いします。

以上

工事前の神戸橋付近

上郷地区センター

右下から左上に蛇行して流れるいたち川



野七里川

神戸橋



工事中の神戸橋付近
神戸橋付近から北方向



左手前の野七里川と、右方向のいたち川本流との合流点 右方向が神戸橋



左上野七里川、本来は右上方向に流れる



手前神戸橋から野七里川合流点方向へ



バイパス河川が奥で旧河川と交わる。
上右方向が土砂で埋められた川窪。



川窪に出来たバイパス河川 上左が神戸橋。
この溝は埋められ、パイプと直線方向に流す。

(写し)

市広聴第105号
平成22年4月16日

ホタルのふるさと瀬上沢基金
理事長 角田 東一様

横浜市長 林 文子 【市長印】

「いたち川の改修に”多自然川づくり”の要請」について（回等）

先にご要望(平成22年3月30日)のありましたことについて次のとおりお答えします。

生物多様性の保全・再生は、横浜の環境を考える上で重要な課題と認識しており、これまでも川づくりを含め各部門で取り組んでいるところです。

平成22年3月に横浜市環境創造審議会から「横浜市生物多様性地域戦略策定の基本的な考えについて(答申)」を受け、今後「生物多様性横浜戦略(仮称)」の策定を進め、これに基づき市民協働による取組を一層推進していきます。

なお、河川改修による治水対策は市民の生命・財産を守る上で重要な取組であり、この整備にあたっては、生物多様性の保全・再生に配慮しつつ推進しています。

本市では、近年の急激な都市化に対応するため、1時間あたり50mmの降雨でも洪水にならない河川改修を行っています。

いたち川は、治水安全度の向上とともに、環境に配慮した川づくりや市民に親しまれる親水性のある河川改修を行っています。

神戸橋の架替については、治水安全度を考慮した工事とし、神戸橋から下流は、市民に親しまれる親水性のある水辺空間や環境に配慮した護岸とする工事を行う予定です。

なお、バイパス河川についてですが、神戸橋の架替を行うために一時的に河川の水を流すための仮設排水路です。

今後とも、自然や生物に配慮した河川改修に努めていきます。

この旨ご了承いただき、貴会の皆様によりしくお伝えください。